交通バリアフリー通信　vol.2

『地域との協働で、まちもひとも元気に！』

中国運輸局では、バリアフリーやユニバーサルデザイン等の分野において先進的に活躍されている方に『バリアフリーリーダー』となっていただき、バリアフリー施策の推進に向けた活動にご協力をいただいています。この『交通バリアフリー通信』では、リーダーの皆さんを訪問してお話を伺い、当事者目線の情報を発信していきます。

第２回となる今回ご協力いただいたのは、『ＮＰＯ法人ウイングかべ』で相談支援センターを運営しておられる、笹原　義昭さんです。地域とのつながりを重視し、障害を持つ方が活き活きと働ける環境を作ることの意味、またその背景にある想いについて教えていただきました。

【今回ご紹介するバリアフリーリーダーはこの方！】

笹原　義昭　さん

ＮＰＯ法人ウイングかべ
あさきた相談支援センター　センター長

◆ご自身が現在の仕事に携わることになったきっかけを教えてください。

大学で福祉を専攻し、卒業後は、まず精神保健福祉士として精神科病院に勤務後、地域包括支援センターに異動となり、高齢者の介護予防等に携わることになりました。当時の私は、２４歳で、相談者の方は、皆さん年上で人生経験も豊富でしたので、逆に教わることが多かったです。相談者の方と関わる際には、患者さん、高齢者、障害者だからではなく、地域の生活者の一人として、地域の中で普通に生活していくためにはどうすれば良いかという視点を大切にしてきました。そして、皆さんの生活しづらさの要因として地域に課題があることに気づきました。その後、地域の課題解決にも取り組む、ウイングかべに転職しました。

◆ウイングかべが目指していることは何ですか。

当法人は、まちづくりと障害者支援の２つを大きな柱として活動しています。具体的な活動として、コミュニティサロン、喫茶店の運営などを通して障害をもつ方々と地域の人たちが自然と交流ができること、一緒に地域のイベントを作り上げていくなどの時間を共有することで、地域の一員としての役割、地域にとっても必要不可欠なものとしての活動を続けています。

活動の中で、亀楽庵（きらくあん）や可笑屋（かわらや）※では世間話の中から相談を聞くことが増え、敷居の低い相談場所としての役割が生まれました。相談に対して専門的な面からもきちんと応えられるように、あさきた相談支援センターウイングを立ち上げました。現在は、有資格者３名で困りごとから将来に向けての希望を叶えるための相談も受け付けています。

※亀楽庵・可笑屋…ウイングかべが運営する、障害のある方と地域の人びとをつなぐ喫茶店。

◆相談支援センターに寄せられる相談はどのようなものですか。

現在、３障害（知的障害、身体障害、精神障害）、難病の方の相談をお受けしています。ご本人や、家族、地域の方からなどから相談があり、電話での対応も含めると、年間のべ３０００件弱の相談があります。相談内容として一例を挙げると、精神障害で通院されている方が、「だいぶ良くなってきた」と主治医から言われ、自身も回復を感じていた時に、知人（看護師）から「もっと元気になるように頑張らないの？」と言われたことがショックだった、というケースがありました。知人に悪意は無かったのですが、本人にとっては、身近な人にも十分理解してもらえていなかったということが辛かったとのことでした。精神障害の方は見た目にはわかりにくいので、ご本人たちもどう伝えたら伝わるのかという悩みも抱えておられました。私が、ご相談を受けさせていただく際に気を付けているのは、自身の価値観を相手に押し付けるのではなく、ご本人の想いを真摯に、また誠実に聞かせていただくことを心掛けています。その積み重ねがお互いの理解と信頼を深める方法の一つと考えています。

◆作業所ではどんなお仕事がありますか。

主に精神障害をお持ちの方が、喫茶店での接客、お弁当・お菓子の製造販売等のお仕事をされています。障害があっても無くても、お客さんと店員という関係性は同じですから、美味しい食事やコーヒーを提供し、それに対価を支払うというのはごく自然なことだと思います。時に、イベント出店前などは、商品を大量に製造しなければならないため、任意で残業をして頂くこともあります。「残業？」と思った読者の方もおられると思います。残業をして頂く方の想いの一つに、自分たちの商品に対する「自信」と「責任」が持てる仕事だからこそというものがあり、それが残業に繋がっています。私たちは、働くことを通じて元気になって欲しいと考えています。今後も一人一人のチャレンジを応援しています。

◆作業所の商品はどんなものがありますか。

地元の特産品を活かしたシフォンケーキやプリンが人気です。障害者がつくったお菓子という位置づけではなく「可部のお土産」としての付加価値をもたせることで、地域興しにもつながるよう意識しています。平成 29 年３月にはＪＲ可部線が延伸となりましたが、一度廃線になった区間を一部でも復活させることは全国初だということで、地域で協力して何か製品ができないかと考え『可部線物語』というかりんとうまんじゅうをつくりました。

可部線物語

地元産のお醤油と、枝豆の入った珍しいかりんとうまんじゅうです。

サンちゃんクッキー

県内産のイチゴ･トマトジャム等を使った3つの味が楽しめます。

また、安佐動物公園・近隣の大学とコラボし、安佐動物公園の人気者であるオオサンショウウオをモチーフにした『サンちゃんクッキー』も開発しました。商品は直営のお菓子工房エール以外にも、近隣のスーパーやサービスエリア等へ販路が広がってきており、しっかりと品質で勝負出来るようになってきたことを実感しています。

＊　お菓子工房エールの商品紹介　＊

ぷりん DE がんす

人気 NO.1 のなめらかなプリンです

シフォンケーキ

特にオススメは地元産の醤油味です

販売場所･･･お菓子工房エール、フレスタ可部店、本通り夢ぷらざ、シャレオふれ愛プラザ　など

他にもこだわりの詰まったお菓子が沢山あります。ぜひＨＰをご覧下さい。

URL：https://www.wing-kabe.com/お菓子工房エール/

◆精神障害を持つ人が公共交通を利用する際に、バリアとなることは何でしょうか。

利用者の中には自宅から公共交通を利用して通所されている方も何人かいらっしゃいます。最近はＰＡＳＰＹに事前登録をすると自動的に障害者割引運賃となるサービスがありますので、だいぶ利用しやすくなったようです。ただ、バスや電車などの狭い空間に大勢で乗ることで、逃げ場が無いような閉塞感を感じる方もおられます。自分の経験でここまでは乗ったことがあるから大丈夫とか、その日のコンディションによっても乗れる範囲が変わってきますので、困ることや乗れない理由も人それぞれですが、行き先や待ち時間が分からず見通しが立たないことが不安というのは共通していると思います。

◆公共交通事業者は、どのような配慮が出来るでしょうか。

なにかトラブルがあったときに声をかけやすい雰囲気を作っていただけるとありがたいです。「分からないことがあればお気軽にお尋ねください」といったステッカーなどを身につけるのもいいと思います。「分からないことがあったが、質問したらちゃんと答えてもらえた」という体験が、次回の利用に繋がるのではないでしょうか。バスの運転士さんの中には、マイクを使って上手に乗客に声かけをされている方もいるので、ぜひ優しく話しかけやすい環境・雰囲気を作ってもらえればと思います。

＊　店舗情報　＊

可笑屋（かわらや）

古民家を再生した趣のある店内で、ゆったりと

コーヒーや軽食が楽しめます。

住所:広島市安佐北区可部 3 丁目 34-1

亀楽庵（きらくあん）

住宅街の中の隠れ家的な喫茶店です。

リーズナブルに定食やケーキセットが楽しめます。

住所:広島市安佐北区亀山 3 丁目 15-40

※営業時間等の詳細については HP をご確認ください。

URL ：https://www.wing-kabe.com/亀楽庵/

＊編集後記＊

インタビュー当日は寒波の影響で、広島市内の平野部でも降雪があるほどの冷え込み。可部地区にあるウイングかべさんでは、水道管が破損してしまうなどバタバタの中、突撃してしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。笹原さんのお話を伺う中で、「地域の方と一緒に活動する」ということが、お互いにとって安心感につながり、暮らしやすい環境になっていくのだと感じました。お菓子はどれもこだわりがあって美味しかったですが、私は枝豆がたくさん入った『可部線物語』がお気に入り&おすすめです。